

帯広畜産大学同窓会報

第16号 平成21年9月 帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学内 帯広畜産大学 同窓会事務局発行

学長、ブラジルに 来たる!!

(ブラジル支部近況報告)



ブラジル支部長

新井重孝
(昭和37年酪農)

当地でも異常気象で、広大なアマゾン流域では、いつ降り止むとも知れぬ長雨で、大河の水位は上昇し続け、平常より30mも高くなり観測史上最高記録を更新しました。一方南部の隣国ウルグアイに接するリオ・クランデ・ド・スール州では極端な干魃で貯水池に水滴らしきものもなくなり、普段は雄大なイグアスーの滝も今は全くみじめなものとなっています。

自然環境は、このように大変厳しくなっておりますが、同窓会員一同しぶとく生きながらえていることを報告できるは幸いです。

今年は2月8日に長澤学長が山口公章氏(昭和46年工)と共に来伯したのを期に、急遽歓迎会を兼ねてサンパウロ市のホテルを会場として臨時の同窓会を開催いたしました。出席者一同の自己紹介、学長から畜大の現状の説明をしていただいた後、懇親会を持ち、一同満足の一晩となりました。

今回の参加者は井田善郎(昭和28年酪)MT州ソリーゾ市在で大規模な大豆栽培農場を経営、堀内祥一(昭和35年総)SP州カンピナス市在、新井重孝(昭和37年酪)PR州ロンドリーナ市在、飯崎貞雄(昭和40

年酪)SP市在でヤクルト商工役員、伯国和牛生産者協会会長等々、青山明弘(昭和46年酪)SP州アチバピア在でフロリクルトウーラ・アオヤマ経営、当地日本語学校校長等、大浦格(昭和57年環)SP州イタペチ在でシンビジューム栽培、板垣隆(昭和59年生産)SP州アルジャ市在でグリーンフーズ社役員、服部敬也(昭和59年生産)MS州カンボグランデ市在でパンタナールー世界遺産観光ガイドの同窓生8名と、今回は研習生として畜大に行った経験のある神谷・ことえ・モニカ嬢と青山明美嬢2名の参加を得たことは、当同窓会にとっては特筆に値することでした。当会は、日本の現状からすると今後、新入会員の増加は望むべくもなく研修生を母校に送り出すことで会の先細りを防ぎたいという思惑もあって、この事業を始めたのですが、今回この結果が得られ、一同喜んでおります。この事業は在学生にも良い刺激を与えてくれるものと期待しております。

今回の同窓会に参加できなかった会員は、永田直春(昭和28年酪)SP在、高橋哲(昭和31年獣)SP州ペレイラ・バレット在、小笠原義元(昭和32年酪)SP在、横田吉弘(昭和32年酪)MG州カンガイ在、稲岡健太郎・美保子(昭和45年酪)RN州ナタール在、山崎孝志(昭和54年獣)MA州ロザリオ在、藤田宗明・めぐみ(昭和62年草)東京在、青山明義(昭和63年生産)MS州カンボ・グランデ在の諸氏がいるが、中でも藤田氏は、日本にいながらマツ・グロッソ・ド・スール州に肉牛の大牧場を持ち和牛の飼育も手がけ日伯間を飛び廻っている異色の存在。この広い伯国のこと、全員の同窓会参加は不可能ですが、次回には誰が参加してくれるか楽しみでもあります。



学長、本部同窓会 役員、関東同窓会 に出席する!!

(関東同窓会の近況)



関東同窓会会長
森田 邦雄
(昭和41年獣医)

関東地方は梅雨の真最中で、蒸し暑い日が続いており、帯広十勝のスカッとした初夏の気候が懐かしく思われます。

帯広畜産大学卒業生の数は、北海道に次ぎ関東が多いと思われ、大学の同窓会名簿でみますと1,500人以上いるのではないのでしょうか。



関東同窓会では、数年前、同窓会の名簿に載せて良いかどうか調査し、名簿に載っている方に総会案内を出すことにしました。現在、作成した名簿には300人強の方が載っており、この方々に会費等を負担していただいております。

事業としては、年に幹事会を2回、常任幹事会を2回開催し、通常、6月の第三土曜日に総会を開催しております。



今年度は、6月20日18時から銀座ライオンで総会を開催しました。長澤学長、大学同窓会樋口副会長、同じく辻事務局長の御参席を頂き、70名の会員が出席し、楽しいひと時を過ごしました。

学長のパワーポイントを用いた大学の近況のお話にはみな真剣に聞いていました。また、大学同窓会から創立70周年のお話があり、来年の事業を考えていかなければならないと思いました。

昨年秋の褒章で瑞宝中綬章を受賞されました、36年獣医卒の松川正さんを皆さんでお祝いし、松川さんからご挨拶をいただきました。

また、48年酪農卒の勝俣和悦さんが愛犬に関する本を出版されたことも紹介されるなど会員の活躍について広く情報交換が行われました。



昨今は、多くの職場において個人主義が広がり人と人の横のつながりが希薄になってきております。このような中、改めて同窓会のよさが見直されて



きているのではないかと思います。組織や地域や年代を越えて人と人のつながり、ネットワークが出来、多くの方とのコミュニケーションを取れる場として関東同窓会が活用されることを期待しています。

第16号発刊によせて

同窓会会長
太田 助
(昭和32年総農)



同窓生の皆様には益々ご健勝で日々ご活躍のことと存じます。

会長を仰せつかりましてから出来るだけ大学に足を向けようとの思いもあり、例年より足繁く母校「国立大学法人帯広畜産大学」に出入りする日が続きました。

それは、大学が5カ年計画で開設しております帯広農村開発教育国際セミナー(OASERD)と、始めて日本で開催が決まった「アジア・太平洋農業・環境教育者学会(APEAEN)の第4回大会」が【帯広市と畜産大学が共催者】となつて帯広で行われ、会場を【帯広畜産大学】とすることになり、この2つが合同シンポジウムをすることになったことによる時期・時間・共同同時通訳等々の調整に時間をかけ実現したことによります。

お陰様で相乗効果があったと思うのですが、海外8カ国の参加者・東京からの参加者からも、学内関係者からも、帯広・十勝・札幌・等々からの参加者からも「高い評価を頂いて」終わることができました。帯広実行委員長として皆様に種々お世話になりました。ここに、厚くお礼申し上げます。

この大会前々日の8月1日に“母校のオープンキャンパス”がありました。これに接して同窓生の一人として、私はおおいに感動しました。

想えば1953(昭和28年)から“ヨトセの夢を育みし”より56年の星霜が流れ、“カクナリシカ!!”であります。

1941年軍馬補充部を嚆矢とする帯広高等獣医学校の創設～獣医畜産専門学校～新制畜産大学～現・国立大学法人帯広畜産大学の歩み。

当時、南・中・北寮が中央廊下で結ばれていた碧雲寮だった跡には、「本部等が屹然建ち」男子寮は「碧

雲寮」「黎明寮」女子寮「萌宥寮」が別棟に在り、講堂・総合研究棟ⅠからⅡ・Ⅲ・Ⅳまで在り、国際交流会館・地域共同センター・原虫病センター・講義棟・付属図書館・福利厚生施設としての生協・等々があまた林立しております。

大学敷地最南端の「畜産フィールド科学センター」へ続く白樺並木は、往年、私達学生が肩を組み腕を組んで、高らかに謳いあげた逍遙歌で闊歩する「逍遙の道」そのものであります。

事務局・教授陣・学生が一体なって高校生・その家族に働きかける様子は、日本国中を席卷している少子化の中で「わが帯広畜産大へ是非！！」との学理的内容を説き、地域貢献・国際貢献の高い評価を得ている様。

学生生活では「運動部」「文化部」活動の文武両道に亘る有意義な人生を送る基礎となる元気・健気・喜気・活気の基盤づくりを説く様。多様な学内施設を公開・案内する様。等々の姿に接することが出来ました。

全国・全世界にいる同窓生のみなさん、自ら過ごした青春のふるさと・母校『帯広畜産大学』は世界に羽ばたいております。

どうか子供・孫・親戚縁者・近隣知己を通じて【『大志を抱き、大自然を謳歌して、学ぶ場は』帯広畜産大学にあり】のウイングを拡げていただきたく、宜しくお願い申し上げます。

「碧雲寮改修」

学 長
長 澤 秀 行
(昭和53年獣医)



昭和16年に帯広高等獣医学校として創設された本学は、来年の3月に、別科草地畜産専修の設立50周年記念事業、再来年には創立70周年記念事業を計画しています。いずれも、これまでの周年事業のように同窓会にお任せするのではなく、大学事務局が全面的に協力して一体となって事業を進めたいと考えています。

記念誌編纂も記念事業の一つと考えています。手元の創立50周年記念誌を見ると、施設だけを見ても時代の流れの早さに驚いてしまいます。校舎や寄宿舎が仮住まいであった創世期に始まり、黎明期（昭和24年から昭和41年）を経て発展期（昭和42年から平成3年）には、木造の校舎や寄宿舎に変わり学生支援のための学生会館が全国に先駆けて整備され、全国初の鉄筋コンクリートの体育館が新設された他、新碧雲寮、講義棟、大学院棟、畜産環境棟などが次々と竣工されました。しかし、昭和50年11月に竣工した畜産環境棟（現

在は総合研究棟Ⅱ号館）も、34年目を迎える今年、改修工事が計画されています。全国の国立大学では老朽化施設の4分の3が未整備の中、本学では、今年は旧家畜病院を増改築して動物医療センターとなり、機能的にも全学的な教育研究施設になったのを始め、図書館と体育館の耐震工事、碧雲寮の改修工事が現在進行中で、更に、学生会館と旧生協食堂の改修工事を計画しています。

先日、寮で一緒だった友人から「碧雲寮が民間のアパートみたいになるそうじゃないか。学生が反対して工事がストップしたんじゃない、経費が嵩んで大変だな。」という電話がありました。新聞報道を見て誤解したようです。「今は、順調に工事も進んでいるし、寮生活のいいところは最大限残したいと思っているよ。」と答えました。

私が入学したのは昭和49年ですが、周囲には今のようなアパートはそれほど多くはなく、碧雲寮はほとんど満室でした。私は4階南（4S）ブロックに入りましたが、19室全室に1年生が居ました。新寮になってから6年というのに、既にかなり汚く、コンパの後の独特の匂いは、今も忘れることはありません。4Sブロックには、冷蔵庫とテレビが1台しかなく、みんなで共有していました。ブロックの誰かに親元から食料品の荷物が届くとみんなで喜んだものです。なぜなら、当然のようにお裾分けにありつくことができるからです。ブロック全体が家族のような存在でした。車も1台を共有していましたが（実は、共同で購入したのではなく、「他人のものは自分のもの」という感覚だったと思います）、借りて乗るときはいつもガス欠間近という状態でした。町に行くには多くはバスを利用し、飲んだ帰りはみんなで歩きということも珍しくない時代です。夜な夜などこかの部屋に集まり、酒を飲んだり、ギターを弾きながら歌ったり、ブロック全体で朝の散歩や、町にツアーに出たりといった楽しい思い出がたくさんあります。時には、友人と哲学的な話で夜を明かしたり、麻雀をしながら部屋周りの先輩を待ったり・・・、寮生活の思い出は尽きることがありません。終生の友と出会い、人間形成に大きな影響を与えられました。当時とは社会状況が大きく変わり、コンプライアンスが問われる今日ですから、大学の社会的責任を果たすことが前提ですが、寮生活のいいところは最大限残したいと思っています。

大学の施設整備に係る国の担当からは、「施設がきれいになって快適だということでは国の予算を配分することはできない。」とよく言われています。本学の施設整備がこれほど進んでいるのは、大学事務局、特に施設課職員の並々ならぬ努力の賜ですが、本学が社会的使命を実行していることも要因の一つだと思います。大学施設の新設や改修により教育研究内容が改善され、大学の本務である人材育成がより効果的に進展することを本学が実践し、そのことを文科省が認めて

くれているのだと解釈しています。

今後とも、「大学の責任」を果たすように心がけ、社会に高く評価される大学づくりを進めて参りますので、同窓生の皆様のご支援ご協力、よろしくお願い申し上げます。



動物医療センター

動物医療センター長
宮原和郎

平成21年4月から帯広畜産大学畜産学部附属家畜病院は帯広畜産大学動物医療センターと名称を変更して、オープンいたしました。施設としてはすでに改修済みであるCT検査室を除く家畜病院本館（現伴侶動物研究棟）と、同様に病理解剖室とBSE検査室を除く病理解剖棟（現病理解剖検査棟）の改修工事（1,516㎡）が行われ、さらに従前の家畜病院本館前にあった駐車場の位置に伴侶動物研究棟の一部として伴侶動物の外来診療部分（424㎡）が増築されました。したがって動物医療センターは、これらに加えて従来の家畜病院新館（現産業動物研究棟、979㎡）を加えた3施設からなります。今回の改修では各施設のゾーン分けと機能的な導線に配慮がなされ、伴侶動物研究棟で例示するならば、外来診療で使用される施設と教育・研究で使用される施設が明確に分けられているため、外来診療時間中であっても来学された動物のオーナーが講義・実習にきている学部学生に鉢合わせすることはなく、学部学生も時間の制約なく講義・実習が円滑に行えるような施設配置と導線が備えられています。また、今回新たに伴侶動物診療科、産業動物診療科、診断検査科を設置し、各科にセンター専任および兼任教員を振り分け、各科には科長をおいてセンターとしての組織構成を明確化しています。動物医療センターでは、伴侶動物の難治性疾患に対する十勝の地域環境を利用した治療研究と、産業動物における疾病予防と畜産衛生に関する研究を通して、動物福祉と地域・社会に対して貢献し生きた動物を活用した特色とバランスのある臨床教育研究を実施することを目標とし、さらに学内各部署のみならず学外の関係機関との利用促進方策について現在検討中です。



ブラジル・パラグアイへの訪問を終えて

連携融合事業推進室参事役
中野昌明

今年の2月、長澤秀行学長、山口公章参事役とともにブラジル及びパラグアイを訪問する機会をいただきました。帯広畜産大学は「食を支え、暮らしを守る人材の育成を通じて、地域及び国際社会へ貢献する」という目標の下に、世界各国の国際協力フィールドにおいて多くの先生方が活躍されており、また、学生に対しては国際的な視野を持って行動できる人材に育てていただくよう、様々な国際経験機会の提供に努めております。今回の訪問は、これらの取組を南米において充実するため、日本への留学相談等日頃より学生交流にご尽力いただいている同窓会ブラジル支部の皆様方との意見交換、獣医・農畜産分野を担う大学やJICAの技術協力現場の視察等を行ってまいりました。この同窓会報を通じて、お世話になりましたブラジル支部の皆様方に感謝申し上げるとともに、簡単ではございますが訪問の概要と感想を報告いたします。



（サンパウロ大学学長室）

ブラジル・サンパウロ到着は2月8日でした。真冬の帯広から真夏のサンパウロへの移動で、帯広出発時との寒暖差は約50℃。この日は早速、ブラジル支部の皆様方との懇談です。学長のブラジル訪問は1977年当時の西川学長以来32年振りとのことで、多数の皆様にご参集賜りました。新井支部長からの寄稿にもありますとおり、とても楽しいひと時を過ごさせていただき、また、多くの日本人移住者をご苦労されて培ってきた農業基盤等が現在のブラジルの繁栄を支えていることを直に感じることができました。

なお、ブラジル支部最大のご懸念は、近年の新入会員がいないことであり、今後できる限りブラジルとの人的交流機会の充実に努めたいと考えております。翌9日はブラジル支部の飯崎様に調整の労を取っていただき、サンパウロ大学を表敬訪問いたしました。同大学はブラジルを代表とする総合大学として世界各国の大学との交流実績があり、また、同大学獣医畜産学部の活動は本学が実践する教育研究活動と共通する部分も多いので、現在、交流の可能性について検討しているところです。

パラグアイには10日に入国し、先ず国の東端に位置するイグアス地域を訪問。この地域は、1961年から日

本人の入植が始まり、日系農協やJICAパラグアイ農業試験場が中心となって農畜産業を振興しています。JICAの技術協力フィールドであることに加え日本語で生活できる環境なので、今後、本学学生が国際協力機会を体験する場として活用させていただくことも考えられます。また、現在本学においては、この地域の日系の若者3人が研修中であり、たくさんの成果を持ち帰って自国で活躍されることを期待しております。翌11日はイグアスから約250km西に離れた首都アスンシオンまで車で移動、赤色の土（テラローシャ）の道が延々と続きます。アスンシオンでは、本学と交流協定を締結しているアスンシオン大学、農牧省、国立家畜衛生センター、日本国大使館、JICAパラグアイ事務所等を表敬訪問し、農畜産の現状・問題点等を聴取いたしました。特にアスンシオン大学では、翌12日の帰国日にまで跨って農学部及び獣医学部の活動状況を紹介いただき、本学との交流充実に向けた強い熱意を感じました。



(アスンシオン大学獣医学部キャンパス)

私が今回の南米訪問で最も印象に残ったことは、ブラジル支部の皆様方が現地でご活躍される一方で、ご卒業から数十年を経た今でも帯広を想いつつ交流の充実に力を注いでおられること、パラグアイにおいては平成17年卒業の若者が青年海外協力隊の女性隊員として元気に活躍されていること、また、帰国した留学生が「帯広が好きで、再び帯広に行って勉強したい」と話していたことです。本学の卒業生が諸外国に飛び出して活躍する、また本学で学んだ留学生が自国に帰って活躍する、そして卒業生・留学生及びその所属機関と本学との関係が将来にわたって持続することは、本学が推進する国際貢献事業の充実に努めたいと考えております。今回の訪問でお世話になりました全ての皆様方に感謝申し上げますとともに、南米に渡ってご活躍される卒業生が増えていくことを祈念しております。



(JICAパラグアイ職員、協力隊員と…)

鈴木前学長の御逝去を悼む



学 長
長 澤 秀 行

鈴木直義先生が平成21年2月11日、約3ヶ月間の入院加療中のところ、その生涯を終えられました。お亡くなりになる直前まで意識もはっきりとされ、大学の将来を案じられていたそうです。最期は、ご家族に看取られ、穏やかな旅立ちであったとお聞きしました。

先生は、本学を卒業後、東京大学で研究に従事された後、昭和41年に本学獣医学科生理学講座に講師として赴任し、助教授、教授、原虫病分子免疫研究センター長を歴任されました。本学着任後、フンボルト財団の支援を受けてドイツに留学されたことが、生涯に渡って原虫病と関る契機となりました。帰国後も、一貫して、血液学領域を基盤にした原虫感染に対する細胞性免疫応答に関する研究に従事されました。中でも、トキソプラズマ感染症の感作リンパ球に関する宿主免疫応答の解析は、後のT細胞学、或はサイトカイン・カスケードの基礎となるもので、国際的に高く評価されています。また、先生はドイツ人研究者との学術交流を基に日独原虫病協会の設立に携わり、発会以来、理事或は会長を続けられ、ドイツ側との窓口として活躍されました。これらの学術業績並びに国際学術交流の功績により、昭和62年にドイツ連邦共和国功労勲章一等功労十字章を受章され、平成4年には「人獣共通トキソプラズマ原虫症の病態生理学的研究」に関する学術業績に対し日本農学賞と読売農学賞を受賞されました。また、平成6年に「紫綬褒章」が授与されています。

平成7年に定年退官された後、平成14年1月からは、本学としては初めてとなる母校出身の学長として大学に戻られました。当時、大学は百年来の大学教育改革である法人化への対応に追われていました。折しも、口蹄疫、BSEなど多くの動物由来感染症が社会問題となり、「食の安全」への社会的関心が急速に高まっていました。先生は、高等教育機関としての大学の責務として、畜産・獣医領域に新たに複合的な枠組みを構築し、感染症だけではなく家畜衛生全般に携わる研究者による高度な研究が行える研究組織整備と高度人材育成のための教育課程整備を行いました。先生は、法人化の波を乗り越え、大学創立以来の念願であった独自の大学院博士課程設置を達成しました。先生は、平成19年12月、任期満了をもって退職されました。これらの大学運営の功績が認められ、平成20年4月に「瑞

宝重光章」を受章されました。

以上のように、先生が教育者、研究者或は大学人として残した足跡は、真に偉大なものがあります。人と人の繋がりを大事にし、相手を思い遣る先生であるからこそ、多くの人に慕われ、学際的な研究分野の開拓も可能であったと思います。鈴木直義先生のご冥福を心からお祈り致します。



帯広畜産大学 別科創立50周年 「黎明会の集い」の御案内

今年の夏は全国的に涼しい日々が続いたようです。皆様におかれましては、ますます御活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、私達が青春のひと時に、汗の臭いとともに学び過ごした帯広畜産大学草地畜産専修（別科）は、昭和35年に創立してから50年を迎えようとしています。先の「黎明会の集い」が昭和59年秋に開催されて25年の月日が経ちました。その間に帯広畜産大学の中も外も大変様変わりをしました。我が草地畜産専修（別科）は同窓生総数1,073名にも達し健在です。

さて、この50周年という大きな節目に際し、記念事業を開催してはという声が別科OBの方々の中から上がり、同窓生の多くより賛同をいただきました。目下、大学の御理解と協力をいただきながら、別紙に記しました概要で準備をしているところです。

つきましては、一人でも多くの同窓生の皆様がお集まり下さって旧交を温めるとともに、我が別科の未来にも思いを馳せていただければ幸いです。今から御予定に組み入れて下さるよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、記念事業の詳細案内については、11月に発送予定の第2回目の通信でお知らせします。

皆様のお越しを、心よりお待ちしております。

平成21年8月吉日

別科同窓生の皆様へ

帯広畜産大学 別科創立50周年「黎明会の集い」
発起人代表 今 田 忠 夫

総会および懇親会のご案内

平成21年9月吉日

帯広畜産大学同窓会会員各位

帯広畜産大学同窓会長

太 田 助

平成21年度の帯広畜産大学同窓会総会と懇親会を下記の要領で開催いたします。会員各位のご出席をお願い申し上げます。

記

開催日時：平成21年10月17日（土曜日）午前11時より
場 所：農協連ビル5階 大会議室
（帯広市西3条南7丁目）
※当日10：30より同会場にて同窓十勝会の例会を開催いたします。

懇 親 会

開催日時：平成21年10月17日（土曜日）総会終了後
場 所：農協連ビル5階 大会議室
会 費：4,000円

なお、大変恐縮ですが、総会、懇親会へご出席をいただける方のみ、同封のハガキに切手を貼り所定の事項をご記入の上、10月5日（月曜日）までに必着でご投函下さい。これも経費節減のためとご理解いただければ幸いです。

不明な点は事務局にお問い合わせ下さい。

なお、メールによる申込みも受け付けます。

E-mail：dousou@obihiro.ac.jp

帯広畜産大学 札幌同窓会総会のご案内

札幌同窓会では、次のとおり総会・懇親会を催すことといたしました。

開催のご案内は、札幌市及び石狩支庁・空知支庁（一部）・後志支庁（一部）にお住まいの方に後日、お送りする予定です。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

開催日時：平成21年11月7日（土）15時～17時
場 所：KKRホテル札幌
（札幌市中央区北4条西5丁目）
会 費：6,500円／当日徴収いたします。

問い合わせは、

札幌同窓会会長 田村（獣医S39）011-661-7575

支 部 だ よ り

上川支部の近況報告

上川支部長

中 村 忠 雄

(昭和40年総農)



国の行財政改革により、国立大学も独立行政法人として、大学経営における創意工夫と財源確保に傾注しなければならない時代を迎えておりますが、我が母校畜大は、魅力ある大学づくりや社会・地域貢献に向けて、全学のスタッフが一丸となって日夜ご健闘され、輝かしい活躍をされておりますことに対しまして、敬意を表するところであります。こうした流れの中で、同窓生からの支援に対しても大きな期待が寄せられているものと推察しております。

さて、上川支部では平成18年11月、旭川において当時の石橋副学長様の御臨席をいただき同窓会総会及び懇親会を開催したところであります。当支部の活動は、昭和40～50年代に森貫一（昭和19年獣医卒）会長のもとで活発に活動しておりましたが、その後活動が停滞しておりましたが、平成18年に役員を若返らせて再出発したところであります。

上川管内の同窓生は、平成18年開催時に確認した段階では約270人おり、20年前と比べて100人ほど増加しております。会員の活動状況は、公務員が26%、民間が20%、自営が16%、農業団体が7%、現役引退者が30%といった状況であります。

若い世代で頑張っている人を紹介しますと、道職員（農業改良普及員）を退職した木村峰行氏（昭和45年別科卒）は道議会議員として3期目の折り返しにさしかかり、益々風格と人望が兼ね備わり、今後の益々の活躍を期待しているところであります。また、村山友希氏（昭和52年酪農卒）は、酪農経営を基盤として、上川南部5市町村、旧7農協を区域とし、正組合員数約2,400名のふらの農協の組合長として、また、上川管内乳牛検定組合連合会会長として、地域農業の振興という重責を担い活躍中であります。

前回開催時は、「昭和23年卒の大先輩」から「平成17年卒の若手」まで幅広い年代の参加者でありました。また、同学科同士、同窓生夫婦など仲間を誘い合っただけの参加、あるいは、昔を懐かしみ1人で参加した一匹狼等々約50人の出席でした。同窓生それぞれが、それぞれの職域で懸命に、あるいは悠々自適に日々を過ごしている訳ですが、今年の秋に3年ぶりに開催する予定であり、多くの同窓生の参加を願っているところです。

大阪支部の近況報告

大阪支部長

中 川 欣 三

(昭和41年酪農)



大阪支部は平成13年多数の同窓の方々の御尽力で設立されましたが、平成16年の忘年会を最後に休会状態になっていました。お世話して頂いていた方々の体調など、事情もあった様でしたが、やはり年1回位で定期的に同窓会を開こうよという声も多く、前役員の方からその世話をやってくれないかという御指示があり、再出発の運びとなりました。

また、事務局長として平成元年卒の藤崎泰造君や大阪と大樹町を行ったり来たり昭和45年卒の黒川二郎君や若い方々が快く幹事を引き受けて頂き、昨年11月29日堂島ホテルで支部総会を開くことが出来ました。大阪支部の設立から会の運営など、御尽力下さいました金谷様や大橋様、本当にご苦労様でした。

さて当日は、昭和26年卒の方から平成20年卒の若い方まで40数名の方々の出席を頂き、楽しい時間を過ごす事が出来ました。また、当日は兵庫支部の方で長澤学長様をお迎えしての同窓会が午後2時から開かれているとお聞きし、黒川君の働きでその後大阪支部へ参加して頂く事が出来ました。なお兵庫の俵支部長様や長谷川事務局長様も学長様を神戸から案内して頂き、その後大阪支部の総会にも快く参加して頂きました。この紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

学長様はスライドを使って大学の近況や、将来への展望など熱く語られ、卒業以来久しぶりの大学の姿とその変化に驚かされている先輩方の姿が印象的でした。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後は学長様の音頭で逍遙歌を肩を組み、それぞれあの頃を思い出しながらの大合唱となり次回の再会を約しての閉会となりました。

次に近々の行事として、藤崎御夫妻やホクレンの鈴木君等の若い方の段取りで、非公式にてジンギスカンコンパを6月7日豊中市の服部緑地で開きました。子供様や30数名の参加を頂き、夕方遅くまで美味しいジンギスカンと楽しい会話を楽しみました。

最後に、大阪支部となっておりますが他府県の方々にも参加して頂いております。皆様で年に数回楽しい時間を共有しませんか？ 下記事務局の電話番号へのご連絡をお待ちしています。

㈱ナカガワ 内 大阪支部事務局 06 - 6482 - 8061

岡山支部の近況報告

岡山支部長
影山 要
(昭和25年農専酪農)



1960年に獣医科第2期生渡辺一正氏が岡山県内の同窓生に呼びかけて、最初の集いことができました。しかしその時の集いは私(酪3期)以外は獣医科2期生の同期会の様なものでした。その時に岡山県支部を作ろうと言うことにはなったのですが、その後先輩たちも多忙な時でしたので立ち切れになってしまいました。それから約半世紀後の2005年に酪農科(昭和36年卒)新藤省一郎氏が2004年アイビ・フーズ岡山工場への転勤を機に、同総会岡山県支部の設立に献身的な努力を頂き支部の成立を見ました。第1回目の設立総会には、鈴木前学長・ならびに事務局長のご来岡頂き岡山県帯広畜産大学同窓会支部会長・影山要、支部長・新藤省一郎、事務局長・大島祥裕(環境学科昭和53年丸紅)で発足しました。参集者は近畿・中四国・九州と広範囲から総計30名ほどに膨らみました。2回目はラグビー部OBが中心の呼び掛けで、この会も西日本一円から駆けつけてもらいました。更に第3回目は学校・行政・留学生・在校生などに声を掛け、80歳から20歳代の集まりで、雰囲気がかたいのか柔らかいのか判断に苦しみました。その後四・五回は大学の行事その他に重なり、役員と県内在住者の会になりました。

会の内容であります。参加する人たちの、性格と才能で多彩な楽しい会が盛り上がります。ただ普遍的なものとしては、十勝の青春回顧とアルコール・ご馳走のお陰で、大満足の会になります。寮歌・応援歌・ストームは2次会の恒例になりました。会の出会いは堅苦しいですが、酒が入り、身が入りますと、深く打ち解けます。老いの私にとっては、まさに青春回帰です。後輩の皆さんの活躍を聞きながら、大変頼もしく力強いもを受け取ります。母校の発展は人のよってなされるんだと、痛感しました。岡山支部の発展は母校の発展に支えられています。母校の万々歳を願い、報告に変えます。

2009年6月若葉の中で

島根県支部の近況

島根県支部長
久保田 政 男
(昭和32年獣医)



一昨年の支部総会において乗本吉郎前支部長が体調を崩され、相談役として退かれましたので、現会員の中では最年長と言う事で不肖私が後を託され、支部長をお引受けする破目になりました。微力ではありますが川津章弘事務局長を始め18名の会員の皆様のご支援・ご協力に支えられながらその責務を果たしたいと存じます。

私の記憶では20年以上前から毎年玉造温泉千代の湯旅館[35年酪農卒新宮(旧姓加藤)安雄氏夫人実家の経営]で一泊しながら夜が明けるまで歓談したのですが、最近は宿泊希望者が少なくなり、県中央部の出雲市駅前の料理屋で最終列車の時刻まで歓談し、ささやかながら旧交を暖めて居ります。

一昨年は鳥取県支部主催で全国和牛能力共進会視察を兼ねて皆生温泉で中国地区(とは云うものの廣島、鳥取、島根の三県)が開催され、隔年開催の本年は島根が当番で、詳細な計画は未定ですが、県中央部の三瓶温泉で開催し、翌日大田市鳥井町の「宮脇 富初代学長顕彰碑(2004年5月地元有志、大田ロータリークラブ、畜大同窓会三団体共同事業として建立)」、世界遺産登録の「石見銀山遺跡」の見学を予定して居ります。この処岡山県、山口県との交流がないので、本年は両県との接触を模索し、名実共に中国地区同窓会を立ち上げたいと考えて居ります。

前回の同窓会報に同窓会本部役員と地方支部との交流を深めたいとの趣旨が記載されておりましたが、本年の中国地区同窓会には是非本部からご参加頂き、日本の食糧基地十勝と畜大との関わり、大学の近況をお知らせ願いたいものです。私事で恐縮ですが同期の大田助君が大石和也前同窓会長の後任として同窓会長就任の由、ご活躍を念じエールを送りたいと存じます(公私混同?)。

終わりに当たり「国立大学法人帯広畜産大学」並びに「帯広畜産大学同窓会」の益々のご発展を祈念申し上げます。

訃 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。[敬称略]

尾崎 金 弥 (S18高 獣 獣 医)	高 山 保 雄 (S25農専・酪農)	東 原 信 幸 (S38 獣 医)
佐々木 茂 (S18高 獣 獣 医)	湯 谷 得 一 (S25農専・酪農)	杉 本 恭 悦 (S39 獣 医)
中 城 眞 (S19獣 医 畜 産)	大 塚 義 一 (S28 獣 医)	矢 尾 勲 (S39総 農)
篠 田 一 郎 (S19獣 医 畜 産)	毛 利 正 秀 (S28 獣 医)	藤 田 秀 明 (S39別 科)
志 賀 厚 (S20獣 医 畜 産)	岩 城 正 民 (S29 獣 医)	前 川 寛 治 (S39別 科)
録 澤 敏 弘 (S22獣 医 畜 産)	北 島 義 章 (S29酪 農)	斎 藤 松 男 (S40酪 農)
篠 原 博 一 (S22農専・専修)	岩 崎 武 雄 (S30 獣 医)	竹 田 博 光 (S40酪 農)
愛 須 辰 哉 (S23農専・酪農)	鈴 木 直 義 (S30 獣 医)	渡 会 信 昭 (S40酪 農)
佐 藤 一 郎 (S23農専・農芸)	森 下 利 春 (S30 獣 医)	佐々木 博 (S41総 農)
藤 沢 恵 一 (S24 獣 医 畜 産)	大 橋 譲 二 (S30酪 農)	浅 田 正 一 (S43別 科)
磯 部 皓 治 (S24農専・酪農)	関 谷 英 一 (S30酪 農)	保 坂 政 克 (S43草 地)
尾 澤 貞 一 (S24農専・酪農)	平 川 慎 剛 (S31 獣 医)	干 場 道 夫 (S44工 学)
大 橋 一 也 (S24農専・農芸)	小 林 悦 夫 (S32 獣 医)	廣 田 好 和 (S45 獣 医)
石 井 最 (S25農専・農芸)	松 本 茂 治 (S32総 農)	馬 場 淳 一 (S51工 学)
窪 田 重 男 (S25農専・農芸)	香 村 和 夫 (S32酪 農)	平 井 栄八郎 (S55草 地)
横 山 武 司 (S25農専・農芸)	石 山 雅 久 (S33酪 農)	
杉 山 清 (S25農専・酪農)	外 崎 誠 (S33酪 農)	

※2008年から2009年現在までに、本部事務局にご連絡をいただきました。

事 務 局 だ よ り

平成20年度 帯広畜産大学同窓会 第1回役員会議事録

出席者 10名
委任状 7通
開催日時 平成20年10月11日(土)
11時30分から12時15分
場 所 帯広畜産大学研究棟1号館
2階 E2502号室

議 題

1. 平成19年度事業が庶務から報告され、承認された。その際、次回の資料作成にあたり以下の点について改善を求められ、来年度から改善することで了承された。
 - ・協賛金納入願いを発送した人数の記載(年度毎の納入者の割合を把握するため)
 - ・役員会、代議員会ならびに総会における簡単な議事録の記載
2. 平成19年度会計と監査結果が会計と監査から報告され、承認された。
3. 平成20年度事業案が庶務から報告された。その際に、8月下旬における「同窓会報の発送」の記入を指摘され、本事業を記入することで本案が承認された。

4. 平成20年度会計予算案が会計から報告された。その際に、以下の審議がされた。

- ・会長から記念事業の開催年度に関する大学側などとの折衝の内容についての話があり、75周年から70周年への変更が提案された。その結果、75周年から70周年に記念事業を変更することで承認された。
- ・事務局長から来年度は同窓会報発送が2回となることと、発送に関わる印刷費などの支出が増える旨の説明がされ、予算案の修正の必要性について審議を求められた。審議の結果、予算案は修正しないで来年度の会計報告時に支出の増額の説明を含めて資料作成と説明をすることで了承された。

上記審議の後、予算案は承認された。

5. 事務局長から名簿の発行年度について提案があり、総会開催年度と同時期に発行する方向で了承された。

以 上

平成20年度帯広畜産大学同窓会 代議員会議事録

出席者 22名
委任状 12通
開催日時 平成20年10月11日(土)
12時30分から13時30分

場 所 帯広畜産大学研究棟1号館
2階 E2503号室

議 題

1. 平成19年度事業が庶務から報告され、承認された。
 2. 平成19年度会計と監査結果が会計と監査から報告され、その際、代議員から予備費の考え方と決算の時期についての説明を求められ、役員から説明がされた。説明後本議題は承認された。
 3. 平成20年度事業案が庶務から報告され、承認された。
 4. 平成20年度会計予算案が会計から報告された。その際に、以下の提案がされた。
 - ・会長から記念事業の開催年度に関する大学側などの折衝の内容についてお話があり、75周年から70周年への変更が提案された。その結果、75周年から70周年に記念事業を変更することで承認された。
 - ・代議員から、特別会計の収入の部分に平成19年度の決算報告に記載されている雑収入の項目を設けるべきであるとの提案がされ、決算時に項目を設けることで了承された。
 - ・代議員から、同窓会の会計に税理士などを雇用する必要性について提案され、役員から現在検討中である旨が報告された。
 - ・代議員から、一般の同窓会運営費と記念事業の積立金を扱っている金融機関と執行の方法などについて質問があり、役員から説明がされた。
- 以上の審議後に平成20年度予算案が承認された。

以 上

平成20年度 帯広畜産大学同窓会 第2回役員会議事録

出席者 15名
委任状 7通
開催日時 平成20年12月5日(金)午後6時より
場 所 レストラン煉瓦亭
議 題

1. 学創立70周年記念について
本件について、同窓会事務局、大学事務局両者協力して記念事業を行うことを確認した。
また、75周年記念は執り行わないことも確認した。
記念事業の一環として、大学の歴史(あゆみ)が重要だと思われる。そのことから今回しっかりとした記録を作成しよう等意見が出た。

報告事項

名簿担当より、12月20日名簿発行予定である。印刷部数は700冊である。
名簿の協賛広告は3件である。と報告がありました。

以 上

平成20年度 帯広畜産大学同窓会 第3回役員会議事録

出席者 10名
委任状 9通
開催日時 平成21年4月22日(水)午後5時30分から
場 所 総合研究棟1号館 E2502

議 題

1. 今年度の日程予定(総会の日程ならびに場所など)事務局長から日程の提案があり、10月17日(土)に開催することで承認された。会場については、後日決定次第通知することとなった。
2. 大学創立70周年記念に向けて
会長ならびに事務局長から大学創立70周年記念事業について役員会資料に沿って説明がなされ、大学側が提示した今後の予定について承認された。
3. 別科50周年事業について
事務局長から別科創立50周年事業について役員会資料に沿って説明がなされた。同窓会から事業の立ち上げ資金などの援助として予備費から100万円を補助することが提案され、承認された。
4. 同窓会支部活動への対応について
事務局長から本州ならびに道内同窓会支部総会へ本部役員を派遣する件について説明され、今後会長あるいは副会長と事務局員1名の計2名が当番で各支部総会へ出席することが了承された。

報告事項

1. 平成20年度第2回役員会議事録報告
議事録について報告があった。

以 上

平成20年度 事 業 報 告

事務局庶務

小 嶋 道 之
(昭和55農化)

平成20年

- | | |
|--------|---|
| 10月11日 | 平成20年度第1回役員会及び代議員会開催 |
| 10月16日 | 第3年次編入畜産科学科学合格者(14名)、学士編入学2年次獣医学課程合格者(4名)へ協賛金納入願いを発送 |
| 10月21日 | 同窓会報第15号発送 |
| 12月5日 | 第2回役員会開催 |
| 12月18日 | 推薦入学合格者(57名)、別科推薦入学合格者(13名)、帰国生特別選抜合格者(5名)へ協賛金納入願いを発送 |
| 12月19日 | 同窓会名簿発送 |

平成21年

- 2月4日 大学院修士課程第2次募集一般選抜合格者(14名)へ協賛金納入願いを発送
- 2月5日 卒業および修了予定者に終身会費納入願いを配布
- 2月6日 2年次編入学・3年次編入学合格協賛金納入者へ記念品贈呈
- 2月19日 大学院博士後期課程一般選抜合格者(5名)、大学院修士課程・博士前期課程国際協力特別選抜合格者(2名)へ協賛金納入願いを発送
- 3月6日 私費外国人留学生特別選抜合格者(2名)、一般選抜前期日程合格者(190名)、別科一般選抜合格者(8名)へ協賛金納入願いを発送
- 3月19日 卒業式会長祝辞
- 3月21日 一般選抜後期日程合格者(70名)へ協賛金納入願いを発送
- 4月22日 平成20年度第3回役員会
- 5月15日 協賛金納入者へ記念品贈呈
- 8月8日 第3回役員会及び第2回代議員会開催
- 9月上旬 同窓会報の発行予定
- 9月上旬 大学院修士課程一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜合格者、大学院修士課程
(平成21年10月入学)
一般選抜・社会人特別選抜合格者へ協賛金納入願いを発送予定

会計報告について

会計報告につきましては、平成19年度決算報告と平成20年度予算を前回の会報(第15号)で報告いたしましたので、今回は掲載を省略いたします。

事務局への連絡

同窓会支部活動のお知らせや役員の変更、会員の逝去など同窓会事務局に随時お知らせ下さい。同窓会のホームページへの掲載や支部会員宛のタックシール作りなどをお手伝いします。

なお、同窓会事務局は、月曜日と金曜日の午前10時から午後5時まで事務職員が直接、電話対応をいたします。火曜日から木曜日に関してはFAX対応となりますのでよろしくお願ひします。また、緊急な場合は、下記の事務局員にご連絡下さい。

- ・事務局電話およびFAX：0155-49-5996

対応事務職員 平方 英代

- ・緊急時対応電話 (0155-49)

辻 事務局長：5510 小嶋庶務担当：5547

嶋田庶務担当：5376 手塚会計担当：5417

岸本名簿担当：5522

- ・ホームページ

<http://www.obihiro.ac.jp/~dousou/>

- ・E-mail

dousou@obihiro.ac.jp

編集後記

今年の夏は、エルニーニョのせいなのか、ここ帯広でも晴天が長続きせず、気温はますますなものの日照不足と多雨で農作物に悪影響を及ぼしています。皆様のところではいかがでしょうか。

さて、本年は年頭に鈴木前学長がご逝去され、昨年は喜ばしい叙勲の報告ができたと思ったら、今年のご逝去の報告と、人生の機微を感じる一年でありました。また、平成23年に向けての帯広畜産大学創立70周年の実行委員会の立ち上げ、また平成22年の草地畜産専修の50周年に向けての取り組みも現在進行形ですすんでおります。今回の周年事業については、これまで同窓会が主催であったものが、法人化以後の体制で大学の主催が可能ということで、新しい体制の周年事業の取り組みとなっているのも、時代の流れを感じるものであります。

また、本年度より、同窓会活性化のため、本州各支部と道内各支部の総会等に年1箇所本部役員がお

邪魔をさせていただくということで、その第1号として本年6月、樋口副会長と小生が学長とともに関東同窓会にお伺いしたところでありました。今年の予定は、終了してしまいましたが、各支部でそのような要望がありましたら、事務局あて要請していただければ幸いです。そして、各支部からご要望の高かった、支部会員への総会案内等の発送についても、毎回は無理としても、会員の住所把握という点から、10年に一度くらいは、こちらから往復ハガキを発送し、支部で集約していただく方法を取ろうと考えております。なにかありましたら、同窓会事務局にご相談いただければ幸いです。

最後にひとつ、今回の会報は、これまでの常識を覆し、トップに支部活動のトピックスを配置してみました。皆さんご覧になっていかがでしょうか。同窓会は同窓生が主役ということで、会長とも相談しこのような紙面構成にさせていただきました。皆様のご意見、感想をお待ちしております。

(文責：辻修)

帯広畜産大学同窓会会則

昭和36年7月7日制定
平成5年10月16日改訂
平成9年10月18日改訂
平成11年10月23日改訂
平成13年10月6日改訂
平成19年10月13日改訂

第1章 総 則

- 第1条** 本会は帯広畜産大学同窓会と称する。
- 第2条** 本会は会員相互の連絡と親睦、並びに帯広畜産大学の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条** 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 同窓会報の発行
 2. 同窓会名簿の発行
 3. 帯広畜産大学の後援
 4. その他本会の目的を達成するための必要な事業
- 第4条** 本会の事務局は帯広畜産大学内に置く。

第2章 会 員

- 第5条** 本会の会員は次の資格を備うるものとする。
1. 帯広畜産大学及びその前身の卒業生
 2. 帯広畜産大学畜産学専攻、大学院畜産学研究科、及び別科修了生
 3. 岐阜大学大学院連合獣医学研究科及び岩手大学大学院連合農学研究科の修了生で本学の講座に所属したものの
 4. その他代議員会で認めたもの
- 第6条** 本会は帯広畜産大学及びその前身の同窓会以外の教員を特別会員とする。
- 第7条** 会員は住所、その他の異動があった場合は、その都度本会に速やかに通知しなければならない。

第3章 役 員

- 第8条** 本会は帯広畜産大学長を名誉会長に推薦する。
- 第9条** 本会は次の役員を置く。会長1名、副会長若干名、事務局長1名、庶務3名、会計3名、名簿編集委員3名及び監事2名。ただし、会長が必要と認めた場合は役員を追加することができる。役員会は前記の役員で構成し、本会の日常的な運営にあたる。本会は役員会の推薦により顧問を置くことができる。
- 第10条** 会長及び副会長は代議員会において会員中より選出し、総会の承認を受けるものとする。その他の役員は役員会において会員中より選出し、代議員会の承認を受けるものとする。役員及び代議員の任期は一期二年とし、再選を妨げないが、会長の任期は二期を越えないこととする。
- 第11条** 会長は本会を代表し、会務を統理する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
- 第12条** 事務局長は庶務と共に会務を担当する。
- 第13条** 会計は会費を徴収し、本会の資産管理と予算の適切な執行を担当する。
- 第14条** 名簿編集委員は同窓会名簿の発行を担当する。本委員は名簿の編集の円滑化を計るため、名簿編集委員を委嘱することができる。
- 第15条** 監事は本会業務の執行及び会計の状況を監査する。
- 第16条** 役員会は会長が招集しその議長となる。本会は構成役員

の過半数の出席で成立し、会の議事は出席者の過半数をもってこれを決する。

- 第17条** 役員会は支部等から若干名の代議員を委嘱し、重要な会務を審議するために役員と代議員とで構成する代議員会を置く。
- 第18条** 代議員会は会長が招集しその議長となる。代議員の3分の2以上の署名により会議の目的事項を示して請求があったときは、会長は代議員会を招集しなければならない。代議員会は構成員の過半数（委任状を含む）で成立し、議事は過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 第19条** 代議員会は次の事項を審議する。
1. 予算及び決算
 2. 会費の変更
 3. 重要な資産の処分
 4. その他重要な事項

第4章 総 会

- 第20条** 総会は通常総会と臨時総会とする。通常総会は原則として隔年で開催するものとする。臨時総会は代議員会において必要と認めるとき、また10分の1以上の会員の署名により会議の目的事項を示して請求があったときはこれを開くこととする。
- 第21条** 総会は会長が招集し、その議長は会員中より総会で選出する。
- 第22条** 次の事項は通常総会においてその承認を受けるものとする。
1. 会則の変更
 2. 役員人事
 3. 資産目録
- 第23条** 総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 第24条** 本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってこれに充当する。

第5章 資産及び会計

- 第25条** 本会の重要な資産を処分するには、代議員会の決議を経て、総会の承認を得なければならない。
- 第26条** 会員は終身会費として卒業または修了後速やかに20,000円を納めなければならない。但し、特別会員は会費を免除する。
- 第27条** 本会の活動を支援していただく目的で、帯広畜産大学に入学される新入生に同窓会協賛金20,000円の納入をお願いする。この協賛金は卒業あるいは修了時に自動的に終身会費に切り替わるものとする。但し、何らかの事情で途中退学されたときには、本人からの請求があれば返金するものとする。
- 第28条** 本会の会計年度は毎年10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

第6章 支 部

- 第29条** 本会はその目的を達成するために、必要があるときには支部を設けることができる。
- 第30条** 支部を設置しようとするものは、その代表者から本会に届け出なければならない。
- 第31条** 支部は支部会において、特別の定めをすることができる。

付 則 この会則は平成19年10月13日から施行する。